

「南無阿弥陀仏と唱うれば自然に他力の
念仏三昧に同ずるなり」

西山上人



お念仏はどこから出るのか。私の口から
出るのか、私の心から出るのか。
わたしの口は嘘をつく。嘆いて、愚痴ば
かりを言う。こんな口からお念仏が出てく
るはずがない。

私の心は、苦しみ、悲しみ、怒り、喜び
にころころ転がって、とてもお念仏が出て
くるわけではない。

ただ一つ、阿弥陀様が私たちに唱えさせ
ようとする願いからお念仏は生まれる。だ
から、嘘を言うこの口で息を吸い、愚痴を
こぼすこの口が息を吐いた時、お念仏が出
てくる。喜怒哀楽に心を揺らせばナムアミ
ダブツになる。

自分から唱えるのではない。自然と口か
らこぼれる念仏、それが他力のお念仏です。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県高砂市在住籠合照弘様に進呈します。
ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

法 灯



無法 尽燈

永観堂法主 玄禮



草引きをしていて、蟻の行列に目がとまる。ここにお寺が建つ前から、いや人が生まれる前から、蟻は今日のように行列をつくっていたのだらう。

アフリカのジャングルも、北極の氷原も、太古から続く世界があつて、今わたしと同じ時間を過ごしている。毎日、陽は昇り、陽は沈む。

世界は続いていくけれど、人には寿命があつて、入れ代わっていく。その中で人が一生の間に何かを遺せるなんて、実は傲慢な考えかもしれない。今を精一杯生きていけば、遺るものはなくても、何かが必ず引き継がれていく。

今を生きたとは、目の前のことに捕らわれることではない。永遠の時間と生きること。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都府京都市在住松尾美恵様に進呈します。ご希望の方は八力圭で住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

如実知見

知如
実見

永観堂法主 玄禮



村はずれに、「へそ曲がりの松」があった。そのなまえのとおり、枝振りがくにやくにやであつたらしい。

それを伝え聞いた有名なお坊さんが、ある日見に行った。それを見つけた多くの村人が、揮毫をしてもらおうと、筆と半紙を持参した。お坊さんは、「この松が、まっすぐに見えたら書いて進ぜよう」と。

村人達は、何とか書いてもらおうと思い、その松を四方八方から見ても、まっすぐに見えるところなどない。一人の男が「どこから見ても、曲がついているな」とつぶやいた。すると、お坊さんは「それが、まっすぐに見えたということだ」と筆をとったという。

あるがままの自身をみつめてみると、どのように見えるであろうか。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮親下のご染筆です。前々号の色紙は、名古屋市在住寺田美代子様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

頂礼懺悔

善導大師

頂礼懺悔

永観堂法主

玄禮



九州での「屋根の上のバイオリン弾き」公演のとき、最前列で一人の女性が、下を向いてまるで寝ているようです。舞台上から、その様子がわかります。森繁久弥さんや俳優たちは、不愉快に思い、大声でセリフを言ったり、床を強く踏み鳴らしたりしました。しかし、最後まで下を向いたままでした。

ステージが終って、アンコールの幕が上がったときに、その女性が拍手をしながら顔を上げました。両目を閉じたままでした。下を向いていたのは、ステージでの声や音を、集中して聞いていた様子なのでした。その姿を見た森繁さんは、女性が盲目であったことに気づきます。

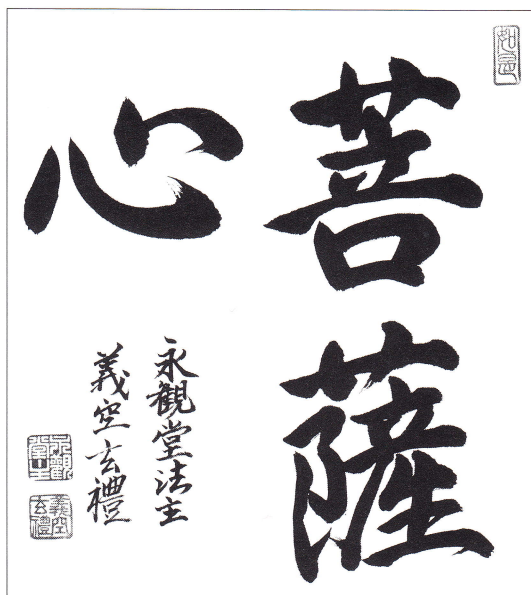
不愉快と感じた自分を、心から恥じた森繁さんは、舞台を降り、涙しながら彼女の手握ったと言います。

自分の行いを詫び懺悔する大切さを教えてくれます。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮親下のご染筆です。前々号の色紙は、浦安市在住植田恵様に進呈します。
ご希望の方は八ガキで住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

菩薩心



妻の身体が不自由になり、寝たきりの状態になって数年間、自宅で介護をやっている。心身ともに疲れ、今日もつい大声で叱ってしまった。寝床に着く前に妻の様子を見に行くと、夢でも見ているのか、妻の頬を一筋の涙が伝わった。

「なぜ、あんな大声で怒鳴りつけたんだろう。ごめんね。ごめんね」「また明日から一緒に頑張ろうね」

安らかな顔で、すやすや寝ている妻に呼びかけた。

「自分が」という考え方を「相手のため」に向けることができたから、慈しみの言葉と生きる活力が出てきたのです。

「もつとほしい、こうしてほしい」という自分中心の生き方は、かえって苦を生みます。自分より他のための生き方にこそ、幸せという大きな功德があるのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猷下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市在住中野等様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

俱会一処



俱会一処

永観堂法主

玄禮



「遠足はなぜ楽しいんだと思う?」と尋ねた先生。

「お弁当が美味しかったり、知らない場所で遊べるから」と答えた児童に、その先生は「帰る家があるからだよ」と。その児童は、家や家庭の有り難さを改めて感じ、今も忘れられない言葉だといえます。

『阿弥陀経』に「俱会一処」という言葉がある。たとえこの世で死に別れても、念仏を称える者同士、来世は必ず阿弥陀様が極楽浄土へ迎えてくださり、再会できるという意味です。

帰る浄土を思いつつ念仏を申すこと。今が辛い人生であっても、この苦しみは今生限りで知ったとき、生き抜く力となります。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県在住林幹雄様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

命を惜みける者を

摂取したまひける仏ぞ

西山上人 述誠

至心 帰命



永観堂法主

玄禮



阿弥陀様のお浄土は西方にあります。だからといって「南無阿弥陀仏」とは、もちろん「南の方角には阿弥陀様はいません」という意味ではありません。

「南無」を訳せば「帰命」、阿弥陀様に命を任せるということになります。

いくら一時、一心不乱にお念仏を称えることができて、一生の間、続けることはできません。まして私は命が惜しくてとても捧げることなど出来ようはずありません。

命惜しむ私たちを見捨てることなく、ひたすら救い続けてくださる阿弥陀様が必ずいらっしやる、そう信じるのが「帰命」です。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、奈良市在住木村暢男様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

断 除 煩 悩



断 除 煩 悩

永観堂法主

玄禮



総本山 永観堂 禅林寺

佛さまの前で、剃刀あみそりを当てて煩惱ぼんごうを断ち切る儀式を「剃度ていど」といいます。

剃りたきは 心の中の 乱れ髪

頭の髪は 兎とにも角かくにも 鴨長明 詠

この歌の「心の中の乱れ髪」とは、煩惱を指しています。つまり、剃刀で本当に落としたいものは煩惱であると詠まれています。

煩惱によって、むさぼったり、怒ったり、恨んだり、迷ったりしているのが、私たちです。とにかく、煩惱に振り回されるばかりで、日々の暮らしの中では、自分を省みる機会はありません。

佛縁とは、自分を省みることでできる機会です。ご本山に参詣すること、菩提寺に参ること、お説教を聞くこと、お佛壇に参ることなどに努めてみましょう。

右の色紙は管長中西玄禮様下のご染筆です。前々号の色紙は、山口市在住大嶋都知恵様に進呈します。ご希望の方は八力主で住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

五色雲



彩雲 瑞光

永観堂法主 玄禮



正しい法を 護るところに
五色に彩られた 雲に乗って
妙なる調べと共に

輝ける幸いが もたらされる

愚痴をいわない

相手を傷つけない

自分がして欲しいことを

まずは相手に

明るい未来は

ごく身近なところ

自分の足もとから

展望が開けてくる

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、大津市在住土岐芳江様に進呈します。
ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

不如一忍

不如一忍

永観堂法主 玄檀



右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、姫路市在住井川悦子様に進呈します。
ご希望の方は八ガキで住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク

決シテ瞋ラズ (宮澤賢治・詩)

そう

いかに侮られ 辱めを受けようとも

怒ってはいけません

怒りの炎は それまでの

尽力も功績も すべて灰燼と化します

「百戦百勝 一忍に如かず」

百の敵に勝つことより

おのれ一人を律し 堪え忍ぶことこそ

尊く大切なのです

総本山 永観堂 禅林寺

親縁



親縁

永観堂九十世 玄禮



十数年ぶりに母親の弁当を食べた。高校時代、毎日欠かさずに作ってくれたお弁当。「いつでもあなたのことを想っているよ」という親心が詰まったお弁当。懐かしい味とともに、このお弁当にどれだけ元気づけられたかと、当時を思い出した。

親は常に子进行い、苦勞をいとわない。子はその深い愛情に育まれる。

善導大師は、阿弥陀様と私たち凡夫を「親と子」の關係に譬えられている。「阿弥陀様は『漏れなく救うぞ。安心しなさい』と、子に対する親のごとく、常に私たちを思っていてくださる」と。

「南無阿弥陀佛」の中にある親心・ご苦勞を知ればこそ、有難さも身に沁みる。

「親の心、子知らず」とならぬよう。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市在住渡邊俊一様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

煩惱即菩提



亡くなったご主人の育てていた蓮の世話を続けている方がいる。蓮の花を見ていると、ご主人のことを思い出し、励まされるという。

多くの經典に蓮の花が出てくる。蓮は泥池の中から清らかな花を咲かせる。その泥が深ければ深いほど綺麗な花を咲かせる。

泥は、煩惱の渦巻く娑婆世界を表わし、花は、菩提すなわち悟りを表わす。

大切な人との別れや病にかかる辛さ、満たされぬ欲望や執着等、さまざまなか泥があり、苦しみ悩むからこそ、気づき目覚めることができる。

蓮は、「この煩惱を菩提を求める力とし、大きな花を咲かせよ」と、そう教えてくれるようです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市在住中辻幸一様に進呈します。ご希望の方は八力主で住所氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。